

Ⅶ. J Aグループ岡山の新たな組織体制の再構築

1. 将来を見据えた組織の再構築

本県では、平成12年11月の第28回岡山県J A大会決議に基づく「岡山県下8圏域構想」を平成20年10月に完遂し、9 J A体制で現在に至っています。

しかし、その後のグローバル化による社会・経済環境の変化や、少子高齢化の進行による急速な人口の減少が想定される中で、今後、地域経済の縮小や県民所得の減少により、一層の地域間格差の拡大が予測されます。

その中で、J Aグループ岡山が長期的な岡山県の農業振興を展望した産地の育成や農業者の農業所得の増大を図るとともに、地域に根ざした協同組合として、多様な組合員ニーズに対応していくためには、一層強固な組織・経営基盤を構築していくことが、極めて重要な課題となっています。

また、J Aグループ自己改革に取り組む中で、こうした課題を克服し、J Aグループの役割を発揮していく上で、従来のJ Aの地区を超えた県域的な体制の構築が全国的に指向されています。

J Aグループ岡山は、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として、J Aの総合力を最大限に発揮し、組織一丸となって取り組める組織体制を確立するため、1県1 J A構想を検討します。